



Harmony



病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

脳神経内科 「診療内容と難病の治療法開発のご紹介」

脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋いずれかの部位の障害で生じる疾患に幅広く対応する診療科です。病気としてはコモン・ディゼーズの脳卒中、認知症、てんかん、頭痛に加えて、比較的患者数の少ない難病が対象になります。

コモン・ディゼーズである認知症の代表的疾患であるアルツハイマー病の治療に2023年ブレーク・スルーが起きました。アルツハイマー病は脳に老廃物(異常タンパク)であるアミロイドβとリン酸化タウが蓄積し神経細胞が死滅することによって記憶障害をはじめとする認知機能障害を呈します。今回の新薬はこのアミロイドβを取り除くものです。ただし神経細胞の死滅がある程度進んだ状態で投与しても臨床的効果を認めないため、対象は認知症予備軍(軽度認知障害:MCI)から軽度認知症に限られます。新薬を期待される患者さんに対応するため 本年4月から脳神経内科ではMCI・認知症外来を開設いたしました。月、火曜日に新患外来をしております。

脳神経内科領域の指定難病数は多く、一部を挙げるとパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多発性硬化症・視神経脊髄炎、シャルコー・マリー・トゥース病、重症筋無力症、筋ジストロフィー、クロイツフェルト・ヤコブ病があります。徳島大学脳神経内科教室は2001年の発足からALSの治療法開発を研究テーマとしてきました。2017年から国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)からの研究費(研究開発担当者:梶龍児先生)とエーザイ社からの治験薬提供等を得て、全国25施設で「高用量メチルコバラミンの筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験」(Japan Early-stage Trial of Ultrahigh-Dose Methylcobalamin for ALS: JETALS)を医師主導治験として実施しました。徳島大学病院が主幹する医師主導治験として初めてのものでした。その結果、高用量メチルコバラミンがALSに対して安全で有用であることが確認でき、2024年9月にロゼバラミンの商品名で製造・販売が承認され11月20日から発売されました。ご協力いただきました院内外の多くの皆様に改めてお礼を申し上げます。

ALS治療薬の臨床評価ガイドラインが米国と欧州にはありますが日本ではまだありません。その結果、新たな評価法などを取り入れることができず今後ドラッグ・ロス/ラグが増えることが懸念されています。当脳神経内科ではJETALS以外のALS治験にも多く参加してきましたが、2024年度からAMEDの委託により「筋萎縮性側索硬化症に対する治療薬の臨床評価ガイドライン作成に関する研究(研究開発代表者:和泉唯信)」をスタートさせました。本ガイドラインによってALS治験が効率よく実施、評価されドラッグ・ロス/ラグを生じさせないことを期待しています。

神経難病の多発性硬化症・視神経脊髄炎、重症筋無力症は免疫異常が関与する疾患ですが、これらの治療が急速に進歩し患者さんの状態がとても良くなっています。日本神経免疫学会が「神経免疫診療認定医」制度を開始したのを機に当科でも上記の3疾患を含む免疫性神経疾患の専門外来を立ち上げる予定にしております。松井尚子准教授が担当する予定です。

徳島大学脳神経内科はこれからも診療を充実させていくとともに難病の病態解明と治療法開発に取り組んでまいります。

徳島大学病院 脳神経内科 診療科長 和泉 唯信

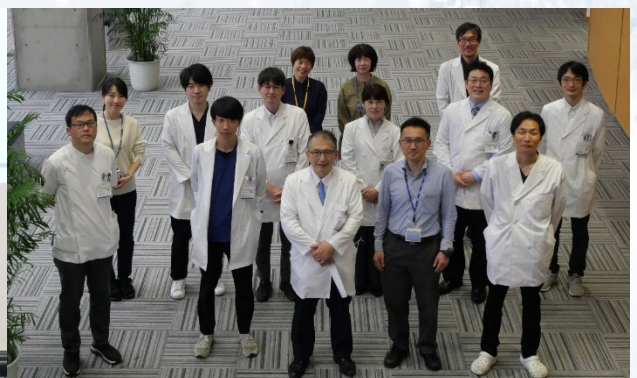


写真:(左)薬剤承認を受けての東京での会見の席にて
(右)脳神経内科スタッフ集合写真

滝沢病院長補佐(研修・キャリア支援担当)に趣味や特技について寄稿いただきました

眉山ラン

私は毎週末、眉山を走って登っています。全くストイックでない私が10年以上続けているので、趣味と言ってもよいのではないかと思います。

きっかけは2010年、パートで行っていた三野病院で副院長がとくしまマラソンを完走したと聞いたことでした。全く走りそうに見えない、私より一回り年上の女性ドクターが3ヵ月程度練習して完走したと聞き、別世界にあったフルマラソンが急に身近になった感覚を今でも憶えています。院長といっしょに「来年は僕たちも出てみよか！」と盛り上がり、慣れないランニングを始めることになりました。最初は、久しぶりに使ったシューズの底が抜けたり、暗い夜道で段差につまずいて転んだり、いろいろありながら徐々に走ることが習慣になり、初参加のとくしまマラソン2011では4時間56分で完走することができました。

その後、海部川風流マラソン、高知竜馬マラソン、おかやまマラソン、神戸マラソンなど、10回以上フルマラソンを完走しています。2016年トロント留学時には、ゴールの横がナイアガラ滝というNiagara Falls International Marathonにも参加しました。一時は市民ランナーの憧れである“サブ4”を目指したこともありましたが、サブ4とはフルマラソン4時間切りのことで、達成できるとエリートランナーの仲間入りです。ちなみに私のベストタイムは4時間24秒です(分の間違いではありません)。

ここ数年フルマラソンは参加できていませんが、眉山ランは続けています。早朝に自宅を出発し、蔵本公園の裏手から眉山に入り、ウォーキングをしている人たちと挨拶を交わしながら西部公園を越え、ゆっくり山頂に向かって登っていきます。春は桜が山をピンク色に染め、夏は木陰が暑さから守ってくれます。秋は落葉が赤く路面を敷き詰め、冬は枯れ木の隙間から見える景色が澄んで綺麗です。山頂でココ・コーラゼロシュガーを飲んだ後は、ロープウェイ下の登山道を一気に駆け降りるのも楽しみの一つです。

病院長補佐(研修・キャリア支援担当) 滝沢 宏光



写真: 四季折々の眉山

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



令和6年度 新採用職員についてご紹介します



産科婦人科
特任助教 田村 公

令和6年4月より勤務しております田村 公(こう)と申します。出身は高知県で、大学から徳島県に移り、卒業後は徳島大学病院、高知赤十字病院、四国中央病院で勤務してきました。現在、不妊内分泌班の一員として、不妊治療に従事しています。徳島大学は日本で初となる医学部倫理委員会を設立した上で1983年に体外受精を日本で3番目に成功させ、現在では多嚢胞性卵巣症候群の診断基準の設定や、着床前胚異数性検査について全国規模での臨床研究を主導するなど、歴史・実績のある大学です。こういった場で働くことができる事に大きな喜びと責任を感じています。未熟な点も多くありますが、皆様と切磋琢磨しながら最善の医療を提供できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
医員 蔭山 麻美

私は、令和6年4月より徳島大学医学研究科博士課程に入学し、赴任しておりましたJA高知病院より帰学致しました。耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野で手術や外来等の一般診療に加え、顔面神経麻痺重症度や予後の評価方法に関して臨床研究をすすめております。帰学して半年があと間に過ぎ、忙しくも毎日刺激的に過ごしております。大学病院は上司や新しい機器などに恵まれた贅沢な環境ですので、積極的に色んな範囲に手を出して勉強していきたいと思っています。子供は2人おり、まだ手もかかる時期で大変ではありますが、同時に仕事の疲れを癒してくれるのも家族です。仕事と子育てと、まずは自身が楽しみながら過ごすことを大事にして、成長していきたいらなと思っています。未熟ゆえ色んな場所で多々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。



歯周病科
修練歯科医 岡山 瑠々

令和6年4月より歯科歯周病科で修練歯科医として採用されました岡山瑠々と申します。昨年、徳島大学病院卒後臨床研修センターでの研修を終了した後、歯周病科所属となりました。主に歯周病治療に従事しており、様々な症例を指導医の先生の指導の下経験させていただき、充実した日々を送らせていただいております。歯周治療にはセルフケアが必要不可欠ですが、患者様本人のモチベーション維持の重要性を感じているところです。

休日は飼い猫と遊んだりカフェに行くことが多いです。もう老猫ですがとても可愛く、日々癒されています。

患者様の健康増進に寄与できる歯科医師となれるよう、治療技術の向上に日々精進して参りたいと思います。未熟ゆえご迷惑をおかけすること多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



薬剤部
薬剤師 岸路 清楓

令和6年4月に薬剤部に入職し、調剤室に配属となりました、岸路清楓と申します。主に調剤室・注射薬補給室にて調剤、医薬品管理といった業務を行っております。また、新人教育の一環として外来化学療法室での抗がん剤の調製にも携わらせていただきました。自分で調剤・調製した薬剤が直接患者さんに届くため、薬剤師としての責任を感じるとともにやりがいも感じております。

趣味は音楽鑑賞です。休日は推しのライブに行ったり、友人とランチやショッピングに行ったりすることでリフレッシュを図っています。

まだまだ至らない点が多く、ご迷惑をおかけすること多いかと思いますが、日々精進してまいりますのでご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



手術部
看護師 出崎 世奈

令和6年4月に入職し、手術部へ配属となりました出崎世奈と申します。

手術部では、患者さんへ安心・安全な医療を提供するため、私たち看護師と、麻酔科医・各診療科医師・臨床工学技士・放射線技師などの専門職が協働してチーム医療を行っています。毎日様々な手術が行われており、患者さんが安心して手術を受けられるよう、チームメンバー同士のコミュニケーションが重要であると感じています。また、患者さんとの信頼関係が築けるように、短い時間の中でも直接患者さんとお話し、情報収集に努めています。さらに、体位の調整や皮膚トラブルの予防など、個別性のある看護が実践できるよう努めています。

休日は家でゆっくり過ごすことが多いですが、友人と予定を合わせ、食事や映画に出かけてリフレッシュしています。

先輩方のご指導の下、手術室看護師として成長できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。